



2019.12.4(水) 第4回学び合いの授業づくり 研究授業!! 21世紀型授業

1年 英語科 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す

○本校本年度第4回目の「学び合いの授業づくり」の取組

12月4日(水)に、本年度第4回目の「学び合いの授業づくり公開研究授業・公開研究協議会」として「学びの共同体スーパーバイザー」の馬場宏明先生に来校いただき、本校の学び合いの姿を見ていただきました。

研究授業では、1年生の英語の授業を本校の前田伊織先生に提案していただき、本校教員と市教委指導主事の参観、その後の研究協議会を実施しました。

グループ学習の約束

- まずは独(ひと)りで考えよう
- わからなかったら訊(き)こう
- 訊(き)かれたら応(こた)えてね
- 訊(き)かれるまでは教えない



前田先生の授業では、Unit 8 part1 「どこにあるかをたずねよう」という授業でした。授業は、オールイングリッシュのペアでの対話から始まり、共有の課題では「where」についての解説を見ながら練習問題に取り組みました。ジャンプの課題ではさらに発展した練習問題である対話文の長文に取り組み、「where＋一般動詞の疑問文、where＋一般動詞の疑問文(三人称単数)」に取り組みました。誰もが自力での解決を目指し、「わからないこと」をグループの人に訊きながら、どの生徒もあきらめず最後までこの作業に取り組む「学び」の姿を見ることができました。

以下が、馬場宏明先生の講評の抜粋です。

- ・この学校では、「学び合いのルール(グループ学習の約束)」が確実に浸透してきているが、繰り返し授業の中で徹底させて守らせていくことが大切である。
- ・「わからなかったら訊きなあよ」という声かけをして、アプローチしておく必要がある。
- ・「わからないをつなげる」ために、わからない生徒に「わからない」と言わせる工夫が大切である。

- ・「わからない」を言わせるために難しい課題・質の高い課題を用意する。
- ・「考えない生徒」＝「答えを待つ生徒」答待ちの生徒になってしまう。最後に答えが来るといふ答待ちの生徒にしない。
- ・「考える」ということは、しんどいこと。考えない生徒を励まして「考える生徒」に育てなければならない。
- ・研究協議会はシビアでなければならない。その意味において、今日の協議会も良かった。
(学校長 神谷 禎之)



発表する。説明させる工夫



「まずは独(ひと)りで考えよう」



自力で解決。書き切る



「訊(き)かれるまでは教えない」



「訊(き)かれたら応(こた)えてね」



「where」を使った英文を生徒の言葉で説明